

目次

巻頭言	1
日本宣教 1%の壁を破る グローバル化の中で	2
流れのほとり ファミリーミニストリー	3
教会と国家プロジェクト 平和論ディベート	4
青年担当者の苦悩と葛藤 JCE6 青年大会	5
N.T. ライト義認論ディベート 聖書信仰と LGBT	6
災害対応で仕える教会 国内災害対策フォーラム	7
JEA アップデート	8



JCE6 は全国から約 2,100 人が参加。全員が登録プロジェクト毎に 8 人ずつのコイノニア（小グループ）の交わりに加わり、四日間を共に過ごした。講演を聴いて終わる伝道会議ではなく、仲間と出会い宣教協力ネットワークをつなげていく場としての伝道会議となった。

「つなげ役」としての JEA

「伝道会議の開催を 7 年ごとに」。第 6 回伝道会議（JCE6）は、この方針に則って開催された初めての伝道会議です。そのねらいは、伝道会議を宣教協力継続のプロセスに位置づけることです。今回の伝道会議では、「宣教協力継続・推進のための会議」として準備され、プログラムも 会議後の宣教協力に焦点がおかれました。各プロジェクトにとって、伝道会議は最終ゴールではなく、むしろその活動プロセスの一環とされました。プロジェクトワークショップでは、伝道会議後の具体的な活動計画策定に重点がおかれ、そのための情報交換、現状分析、課題の共有、提言・提案が活発になされました。コイノニア（小グループ）での分かち合いも、宣教協力継続への参加意識を高めることが、そのねらいのひとつです。伝道会議のフィナーレは、新たな出発のオープニングとなりました。神戸のアナログシアでは、すでに 2017 年の各働きの具体的な計画が立てられ動き出しています。

伝道会議での行動指針や計画に基づく宣教協力の継続・発展という点では、第 7 回伝道会議に向けたこれからの 7 年間は、初めのことをたくさん経験する期間となるはずですが、それゆえに、問題や課題も多くあります。現状維持のための問題処理はしんどいばかりですが、未知の領域に踏み込む際に生じる問題や課題の克服は、苦勞を伴いながらも、作り上げる喜びがあります。

宣教協力の新たな展開のために、ともに労しともに喜びを分かち合う場や、それがやりやすい仕組み・環境を提供する、そのことが期待されて立ち上げられたプロジェクトが、JEA 理事会が担当した「宣教協力とそのインフラ作り」です。具体的には、①教団教派間のネットワーク作り（教団教派代表者の集いの開催等）②地域教会間のネットワーク作り、③地方教会の発展的継続の試み、④宣教インフラとしての JEA のあり方の検討とその実施（宣教委員会の三部門制への再編、理事会の体制見直し等）、に取

り組んでいます。このために、JEA にも新たな役割が求められています。

これまでの JEA を表すキーワードの一つは、「福音派の結集」であろうと思います。ここでの JEA の役割は、「まとめ役」と言えるでしょうか。伝道会議はこの結集の結実であり、また、各教団教派や諸教会が、福音派の結集によって互いに多くを学び、励まされ、活性化されてきました。

では、「宣教協力のインフラ」をキーワードとした場合、JEA に求められる役割は何でしょうか。それは「つなげ役」ではないかと思います。各教団教派、諸教会、諸団体の主体性と成熟を前提に、JEA が個々のミニストリーをつなぎ合わせる場となることです。それぞれに宣教の働きを行っているもの同士が、いろいろな機会を通して新しいつながりを得、つながりを保ち、つながりを深める場です。それによって情報交換や課題の共有が活発になり、各働きに相互の励ましと強化が図れます。

さらに、このつながりを通して、新しい宣教の働きが生み出されてゆくことが、宣教インフラプロジェクトの願いです。既存の働き同士による宣教の新展開もあれば、新しい仲間が出会って始まるミニストリーが起こされるかもしれません。JEA の交わりが、宣教の働きをつなぎ、生み出してゆく場となるよう、宣教インフラプロジェクトは働きを続けてゆきます。

あなたがたの間において、あなたがたと私との互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。（ローマ人への手紙 1 章 12 節）

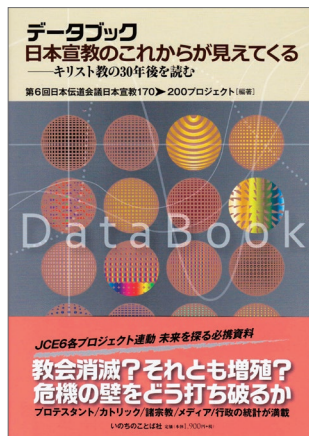


佐々木望
JEA 理事 (JCE6 担当)
日本バプテスト教会連合
守谷バプテスト教会牧師

日本宣教 1%の壁を打ち破るために

JCE6 プロジェクト 13「日本宣教 170 ▶ 200 プロジェクト」は、東京基督教大学国際宣教センター日本宣教リサーチが JEA 宣教委員会と協力して日本宣教 170 年（特に直近の 30 年）の各方面のデータを調査し、JCE6 の各プロジェクトとも協力して「データブック」を作成することでした。そして一年かけて「データブック『日本宣教のこれからが見えてくる』ーキリスト教の 30 年後を読む（いのちのことば社）が出版されました。

ワークショップでは、プロジェクトリーダーの山口陽一師による趣旨説明、中心となつて



「データブック」を編集された柴田初男師による発表、小グループに分かれてのディスカッション、そして JEA 宣教委員の下道定身師と福井誠師によるまとめの発題という内容でした。特に日本宣教の 1% の壁を打ち破るため、教会が積極的に外に出て行って、地域との関係を作り、地域のニーズに答え、地域と共に生きる教会となることが提言されました。そして具体的に、今ま

で無視しがちであった地域の宗教的ニーズと、高齢化社会の中でいよいよ高まる地域の福祉的ニーズに教会が具体的に答えていく必要があるとされました。これを受け、JCE6 で積極的に取り入れられた小グループでのディスカッションが行われ、参加者が自分たちの教会でおこなっている地域に対する宣教の取り組みを分かち合いました。今までどの教会も外に出ていく試みが続けてきましたが、その働きが地域のニーズをよりとらえ、教会からの一方通行的な宣教にならない、地域の人々の生活に組み込まれていく必要が示されました。

最後に「データブック」の宣伝をします。主は私達に知恵を与えようとしておられます。その知恵のヒントになるデータがここにあります。この日本での宣教に活かすためのデータです。今まで、得たいと願いながらも、網羅し把握しきれなかった情報がこの本にはあるのです。どうかこの「データブック」を手になされ、ぜひこれに基づいて考え、議論をしていただきたいと思います。すべての教会がこの「データブック」を手にし、現状を分析し、宣教に役立てて欲しいと思います。また、すべての神学生がこのデータをもとに、日本における福音宣教について学んで欲しいと思います。

中西雅裕 JEA 理事・宣教委員長

日本ホーリネス教団 横浜教会

神谷典孝 JEA 宣教委員

JECA 横浜さちが丘キリスト教会

グローバル化の中で神様がなさっていること

JCE6 「国内外国語宣教、その現状と可能性」分科会と、伝道会議直後のポストプログラムとして開催された「在外日本語宣教従事者の集い」(グローバル・ミッション・クリスチャン・フォーラム = GJCF)は、JCE6 プログラム委員会のもとに集められた JCE6 グローカルミニストリー委員会が主催したものです。

国内外国語宣教の分科会には、日本国内で自分たちの言語で礼拝している民族教会のリーダーたち、そのような教会との協力に関心のある日本の地域教会の牧師、日本から海外に派遣されている宣教師・元宣教師、宣教団体の働き人が集まり、フィリピン教会日本協議会議長の Dr. アリンソッドと福田崇師(ウィクリフ霊の大使)のリードで、他文化・他言語の教会の事情と、日本語の地域教会との協力の可能性について意見交換がされました。

「在外日本語宣教従事者の集い」は、伝道会議終了後、日本イエス神戸中央教会を会場に夕食愛餐会で始まり、品川 JEA 総主事の「日本語で福音を伝える責任」と題するテーマ講演で、マルコ 1:15 から、国境がなく拡大する「神の国」のマインドを持つことが奨励されました。翌日の午前中には、内村伸之師



(ミラノ賛美教会)、松本章宏師(シンガポール日本語キリスト教会)、鹿島望師(豊田東キリスト教会)、吉川直美師(シオンの群教会)、三橋恵理哉(札幌キリスト福音館)をパネラーに迎えてのシンポジウムで、「教会とは」、「ネットワーキングと協力関係」、「次世代リーダー育成」、「日本語による宣教」の 4 つのテーマについて、5 人それぞれの立場、経験から語る

れ、それについてのグループディスカッションを行いました。閉会礼拝では JEA 理事長・JCE 6 会長の中台孝雄師が、ピリピ 4:13-20 より、パウロの宣教チームとピリピ教会との協力関係から、在外日本語宣教と日本の教会との協力への示唆を語ってくださいました。このような集いは初めての試みでもあり、交わりの時間は十分とは言えなかったかもしれませんが、延べ 100 人を超える方々(その約 1/3 は、海外からこの集いに参加した、在外日本語教会の牧師・宣教師)の分かち合い、祈り合いの場となりました。

日本伝道会議においては、2000 年第 4 回で在外邦人宣教という文脈での「ディアスポラ宣教」が初めて取り上げられ、2009 年第 5 回ではディアスポラ・ネットワーク・プロジェクトとなり、以後毎年、の宣教フォーラムで理解を深めてきました。今回の会議までの間には、海外で主に会った、あるいは信仰が刷新された帰国者たちの集いが何度も行われ、地域ごとの交わりに発展しているという流れの中で、在外邦人宣教と国内異文化・異言語宣教は、同時進行中であり、今主がどこで誰を用いて何をなさっているかの、明らかな例と言えるでしょう。

今やボーダーレスな世界でグローバルな視点で働きを進めざるを得ない日本の教会として、今回のライト博士の講演 3 (世界: 統合的宣教の場所として世界を re-vision する)と講演 4 (可能性: 宣教における一致と希望を re-vision する)を聴く時、日本における異文化・異言語宣教と、日本語ベースの国外宣教を考える機会として、このユニークな 2 つの集まりが日本伝道会議という場で持たれたことは、主のイニシアチブに応えるものであり、今後国内外宣教協力が実際に展開されてゆくことを、主に大いに期待したいと思います。

松崎ひかり JEA 宣教委員
アンテオケ宣教会

流れのほとりて No.21

JEA 女性委員長 阿部恵子
エヴァンジェリカル・コングリーゲーション・チャーチ
相模原グレース・チャペル

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。(ヘブル人への手紙 12章2節)

裏の雑木林の葉が紅葉し、枯葉が舞っているのを眺めつつ、この1年を振り返りました。1年あったという間だったと感じつつ、丁寧に思い返してみると様々なことがあったことに気がつかされ、ワンシーン、ワンシーンに主イエス様が共にいてくださったことを思い、胸がいっぱいになりました。私達が自分のことを記憶している以上に神様は、私達の日々を大切に覚えてくださっているのではないのでしょうか。そう思うと生かされている一瞬一瞬がなお貴重されます。

9月、日本伝道会議に初めて参加し、主イエス様を中心に集まった2千人のクリスチャンと共に過ごす素晴らしい経験をし、元気をいただきました。プロジェクト・ファミリーミニストリーの「夫婦関係」を担当し、準備から夫婦として自分はどうかと心探られ、弱さや罪を示されました。身をもって家庭に福音の結実が重要なことを教えられました。

「家族」のためにできること JCE6 ファミリーミニストリー・プロジェクト報告

女性委員会では発足以来26年間、「宣教における女性の働き」と「家族」のテーマに取り組んでいます。その継続として、第6回日本伝道会議では、「家族」に特化した「ファミリーミニストリー」を立ち上げ、特に結婚、夫婦、親子、高齢者の問題に絞って取り組みました。教会が家族の祝福の源になることを願い、また実現可能な「神の家族」としての教会、個人の取り組みを一緒に考えることを目的としたのです。

また、プロジェクトでは、JEAの枠を超えて、各地域で活動しておられる女性の働きとも繋がることができないかを探りました。その中で、この伝道会議を契機に発足した神戸女性委員会と交わりを持ち、課題を共有することができ、プロジェクトにも多くのご協力をいただけたことは大きな収穫であったと感謝をしています。

プロジェクト登録者数は190名あまりで委員の予想をはるかに超えた人数となりました。「家族」への関心の高さをあらためて感じました。ワークショップでは以下のような内容で事例発表がありました。

落胆するできごと、チャレンジに満ちた困難、先が見えない不安等に思い煩ってしまう者にイエス様はその度に、見るべきは状況とあなたではない、私を見上げ私の支配にゆだねなさいといつも語ってくださいます。自己中心にならないで、心の王座にイエス様をお迎えし聖霊に働いていただくよう繰り返し追ってくださいます。



迷い易く、疑い易い弱い者に、決してぶれない信仰の創始者であり完成者であるイエス様がいてくださり、目を離さないでいなさいと立ち返るべき原点を示して導いてくださいます。それは、私が福音に仕える者とされるためです。(エペソ3:7) イエス様によって与えられた走路を走りぬぎ、栄光を拝する希望が与えられている恵みを忘れないでいたいです。

- (1) クリスチャンホーム建設についての課題と取り組み
 - ① 「祝福されたクリスチャンファミリーの形成を願って」
 - ② 結婚：KGKでの取り組み
- (2) 夫婦関係の対応と教会の対応
 - ① 関係を築き上げるツール
「プリマリ・エンリッチカウニング」
 - ② 「よりよい夫婦関係を目指して」
- (3) 親子のミニストリー
 - ① 「子育てひろば♡ラブベアーズ」
 - ② 教会にユースが集い続けるために「ユースの集い」
- (4) 高齢化社会の課題と教会の対応
 - ① 高齢者の集い「のぞみ会」
 - ② 高齢者生活支援施設「みそのホーム」

事例の多くが、教会や地域社会の必要に何とか対応できないか、と祈りと信仰によって立ち上がった、わずかな人々によって始まった活動であることは大きな励みとなりました。このプロジェクトが個人のまた教会の「家族」への取り組みの助けとなることを願っています。

梅田登志枝 JCE6 ファミリーミニストリー・プロジェクトリーダー
イムヌエル総合伝道団 市川キリスト教会

新委員自己紹介

蔦田由理 (東京国際基督教教会)

JCE6のプロジェクトが始動している中、今年から委員に加わらせていただきました。戸惑いつつも、恵みとチャレンジを受けています。委員会での交わりと活動は、在日華人教会で奉仕する私にとって、日本の教会の現状を知る場所であり、表れは違うこともありますが、課題は同じであることを痛感し、教えられています。委員会の奉仕を通して神様が働かれるフィールドを見、知り、祈り、働くことができることを願っています。

《JEA女性委員会メンバー》

新委員長 阿部恵子 (エバンジェリカル・コングリーゲーション・チャーチ)

委員 三橋香代子 (福音自由)、藤田真木子 (同盟)、蔦田由理 (イムヌエル)

JEA女性委員会主催 第12回心のオアシスリトリート 開催のお知らせ

日時 : 2017. 6. 26~28

テーマ : 『聖書の女性たち...』

~そのぬくもりと優しさに寄り添って

講師 : 神津喜代子師

場所 : マホロバマインズ三浦 (予定)

JCE6 教会と「国家」プロジェクト

「戦後 70 年にあたっての JEA 声明」により、福音派キリスト教会が結集し JEA として歩んできた原点の一つに、戦時下の日本の教会が、天皇制国家神道体制に屈し、イエス・キリストのみが主であるという証しを十分に示しえなかった反省があったことを確認しました。この原点に立ち、再び台頭するナショナリズムといかに対峙し、平和を創り出す教会として歩むかという重い課題に JCE6 教会と「国家」プロジェクトは取り組みました。単に聖書箇所解釈の積み重ねのみならず、聖書神学、組織神学、歴史神学、実践神学の体系的な聖書の理解を通して、現代に平和を創る意味を考え、以下の発題とグループ討議を行いました。

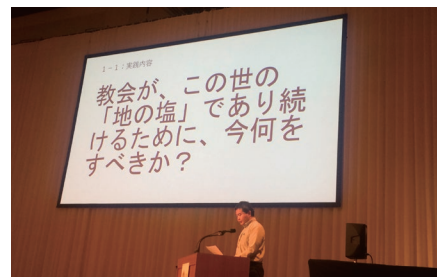
●聖書神学的視点「ロマ書 13 章に見る教会と国家について」(須田毅 JEA 社会委員) 日本の注解書においてロマ書 13 章「上に立てられた権威に従う」ことがどのように語られているかを比較し、解釈と今日的な適用について今の課題をいかに捕えているかを考えました。

●組織神学的視点「聖書のキリスト王権の教えと日本の霊的革新」(瀧浦滋アナログ社会委員) 聖書的な世界観は、あらゆる領域において、キリストが王として統治していることを教える。世俗的統治においても、王であるキリストへの忠誠こそが基軸であり、為政者や市民にとっても、信仰の良心をもって御心に仕えることが「国家基軸」となる。このことをスコットランドの牧師サイミントンの信仰を通して確認しました。明治

維新政府が創作した国家神道体制は、まさにこのキリスト教世界観の模倣であり、真似事でした。

●歴史神学的視点「宗教改革と抵抗権」(星出卓也 JEA 社会委員) 16 世紀宗教改革者たちは聖書的な救済論を論じるだけでなく、聖書的世界観、国家観まで論じました。神の創造の御心にまで遡り、神が地上の権威を立てた御心を探求し、それに逸脱する国家の動向に対して批判し、神の御心に逆らう地上の権威に対する抵抗権を実践したことを確認しました。

●実践神学的視点「なぜ君が代を歌えないのか、立てないのか」(奥野泰孝アナログ社会委員) 大阪府立特別支援学校の教師として、君が代斉唱時の起立が職務命令として課せられ、信仰の良心の自由のゆえに拒否したことに対して職務命令違反の処分が行われた奥野兄の実体験を通して、キリストのみを良心の主とする今日の実践を考えました。



星出卓也 JEA 社会委員
日本長老教会 西部柳沢キリスト教会

絶対平和か義なる戦争か～ JCE6 分科会 平和論ディベート

伝道会議二日目午後、平和論ディベートが行われました。星出卓也牧師(第一部・絶対平和論、第二部・護憲的平和論)と上中栄牧師(第一部・義戦論、第二部・改憲的平和論)による仮想的な対論(ディベーターの主張と個人的見解が同じとは限らない)という形でした。上中師は、ディベートの趣旨をフロアへ折々に確認しました(特に、互いの論点の交換を聴き、



「ディベートという一種の仮想討論を共に経験している」という前提に、絶えず立ち返ることができたからだと思います。

この数年、各教団教派内で信教の自由や平和に関わる社会的課題について、かつてない多様な意見が強く出されることを経験しています。各キリスト者や教会が異なった見解を持つこと

は当然のことと言えますが、このような社会的取り組みに対しても、私たちは信仰と生活の唯一絶対の規範である聖書に聞き学ぶことを前提にして、対話を継続していきたいと願っています。それゆえに、聖書を源とする枠組みの中での諸見解という括がりの限度はあり、教会外の価値観の影響は峻別してなるべく取り除き、聖書を源泉とする見解を練り直し続けていきたいと考えています。このディベートという手法は、互いの意見を最後まで聞くことができる良い方法だと思いました。

フロアからは「JEA あるいは社会委員会の提言が欲しかった」等の注文もありました。しかし、フロアも参加し、多様な意見が率直に出されたことが意義深かったと感じました。ある参加者からは「自分は本来は違う立場であるが、討論を聴いて、反対の立場の見解に説得された」との感想も寄せられました。これは、企画者たちにとってはうれしい反応でした。重要な課題ですが、対話しながら揺れる経過が私たちにあるでしょう。また、揺れ動きながら収斂していく道も私たちにあります。主の御心を求めて歩むことで、現実社会に生きる証しの道が明瞭になっていくことを願います。

須田毅 JEA 社会委員
JECA 西堀キリスト福音教会

教団・教派青年担当者の苦悩と葛藤

～ JEC6 青年プロジェクト報告～

開催日時：2016 年 9 月 29 日 14:00～16:30

場所：会議場 502 号室

神戸で行われた第 6 回日本伝道会議における「青年プロジェクト」は、「教団教派青年担当者の苦悩と葛藤」というテーマで行われ、約 140 名の方が参加されました。青年宣教の現場にある様々な苦悩や葛藤を共有し、青年宣教の前進のためのネットワークを築くことがこのプロジェクトの目指すところで



す。西村敬憲委員長による率直な講演を皮切りに、立てられた 5 名のパネラーがそれぞれの現場で直面している様々な課題やそこから見えてく

る前向きな提言などを分かち合いました。

5 名のパネラーは異なる教団教派に属する青年担当者（寺東真也師：キリスト兄弟団、竹井祐一師：日本バプテスト教会連合、

薦田聡毅師：インマヌエル綜合伝道団、大竹護師：日本長老教会、早坂恭師：日本福音自由教会協議会）でありました。これらの講演とパネラーの提言を通して、若者と年配者との世代間ギャップとその狭間で苦悩する青年担当者の現実を知る機会となりました。課題を共有しつつ、それをどのように乗り越えていくべきかを共に考えました。教団教派を超えて協力していくべき重要性が再確認されたと言えるでしょう。

さらに、それぞれのテーブルごとに活発な議論がなされ、2018 年 11 月開催予定の第二回日本青年伝道会議（NSD2nd）に向けて期待することや具体的な提案が出されました。全体的には、参加者の熱意、関心が強く伝わってくるようなプロジェクトとなり、「非常に楽しかった!」という声や「もっと具体的な方策について学びたい!」、「NSD にぜひ協力したい!」といった意欲的な意見もあり、今後が楽しみなものとなりました。第 2 回の NSD に向けて良いネットワークが築かれていくことを主にあって期待しています。

早坂 恭 JEA 青年委員

日本福音自由教会協議会 東村山福音自由教会

JCE6 青年大会レポート

日本伝道会議の青年大会は、全体会議の翌日 10 月 1 日（土）に兵庫県民会館けんみんホールで午後 1 時より行われました。中学生からスタッフまで総勢 360 名の参加者で会場は文字通りあふれました。賛美では、阪神地域の諸教会の合同ワーシップチームが、息の合ったさわやかなリードをしました。また、証しに辻礼衣さん（福音自由武庫之荘）が教会附属の施設での幼児教育携わる使命感、喜び、また葛藤をまっすぐに話し、共感を呼びました。また老松望師（KGK）も、これまでのさまざまな幅広い体験を興味深く語られました。

メッセージは、準備から青年たちのコーディネーターとして労してきた、関西地域で人気上昇中の鈴木雅也師（hi-b.a.）が「Action」のテーマで一歩踏み出していく信仰のダイナミックさを力強く語ってくださいました。

そのあとの、7 人前後のグループでの分かち合いは、教会を越えて和やかに熱気のある姿でいっぱいでした。3 時間に及ぶ集会が終わっても、会場を後にするのを惜しむ充実感を感じていたと思います。

伝道会議期間中は、9 月 28 日（水）夜 7 時から青谷福音ルー



テル教会で青年宣教の集いが行われ、100 名の定員を超える参加者が、手作りの食事をいただきながら楽しい交わりを持つことができました。ま

た翌日には、フットサルと温泉の集いも企画され、50 名近くの人たちが小雨にもかかわらず心底楽しみました。

これらを企画運営したのが、神戸地区の青年アナログア委員会でした。長年

青年宣教を担ってきた神戸青年宣教推進会（KYM）が母体となり、JCE6 の青年宣教プログラムを負うために 2014 年から発足



しました。若い教職者と KGK や hi-b.a. のスタッフの熱意を大槻紀夫師（東灘バプテスト）のもとで、丁寧な準備へと積み上げられてきました。

また、これを機会に関西のネットワークを形成・強化するために有志による「祈ろうかい」がはじめられ、大橋謙一師（福音自由武庫之荘）をはじめとして心強い協力体制が生まれてきました。

青年大会のために 2 回のプレ集会も行われ、参加者へのコンタクトの継続、テーマの統一性、賛美チームの編成、プログラムの試行などが積み重ねられてきました。教職者や宣教団体のつながりと青年同士の出会いや奉仕による連帯感など、共有できたものはきりがありません。もうすでに、超教派での青年集会を継続してやりたいという声、上がっているようです。

西村敬憲 JEA 青年委員長

日本同盟基督教団 西大寺キリスト教会

牧師の本棚

「聖書信仰の成熟を求めて」プロジェクト

関野祐二 JEA 神学委員長
聖契神学校

神学委員会は、第6回日本伝道会議でまず「福音」分野唯一のプロジェクト「聖書信仰の成熟を求めて」ワークショップを企画しました。聖書信仰との関連で、聖書の靈感、NPP(パウロ神学の新たな展開)、日本的キリスト教、物語神学&オープン神論、科学、LGBT(性的少数者)、説教、IT(情報技術)の8項目を取り上げ、20頁の事前資料を配布した上で、約200名の参加者が23のグループに分かれ、各神学委員が用意した

課題に基づきディスカッションをしました。また、分科会として「神学ディベート-N.T.ライトの義認論」を開催し、小嶋崇氏(賛成派)と橋本昭夫氏(慎重派)の議論およびフロアとの質疑応答で、福音派の注目が集まる神学テーマを深めました。以下は、プロジェクトワークショップと分科会各々の参加者による率直な感想です。

神学ディベート「N.T.ライトの義認論」に参加して

今回の日本伝道会議の分科会で神学ディベート-N.T.ライトの義認論に参加させていただきました。会場の会議室はほぼ満席で、関心の高い議題であると感じました。

N.T.ライトの義認論について小嶋崇氏(東鴨聖泉キリスト教会)が発題し、それに応答する形で橋本昭氏(神戸ルーテル神学校)がルター神学の立場からライト批評をするというディベートでした。時間の制約がかなりあったため、それぞれの発題でほとんどの時間が占められ、深まった議論を展開する時間がとれなかったのは残念でした。

小嶋氏はライトの著作に精通しておられ大変、わかりやすく的確にその義認論をまとめてくださいました。橋本氏もライトの義認論をよく学んだうえで、ルター神学の立場から批評を展開してくださり、なるほどと思える内容でした。

具体的なところまでは踏み込むことはできませんが、私の感想としては、やはり異種格闘技的な討論だったという感覚を拭うことができませんでした。ライトが展開している綿密な聖書釈義と第二神殿期ユダヤ教を中心とした歴史的文脈から紡ぎだされた義認論と、ルターが16世紀に宗教改革という歴史的

脈の中で再発見した義認論には方法論的に大きな隔たりがありすぎて、両側からのもっと学

術的な歩み寄りがないと、そもそも討論すること自体が難しいのではと感じました。しかしながら、これまでライトの義認論に

ついて、改革派、ルター派から厳しい批判がなされ、時には危険視されてきたことを考えると、このような討論によって、互いに学びあう第一歩を踏み出すことができたのは大きな意義があったのではないかと思います。

ライトの義認論についての討論が伝道会議の分科会として取り上げられたことを通して、さらに日本における神学的土壌が豊かにされ私たちの聖書的な義認理解が、聖書神学の側からも、歴史神学の側からも深められることを期待しています。

岩上敬人 イムマヌエル綜合伝道団 武蔵村山キリスト教会



ワークショップ「聖書信仰とLGBT(性的少数者)」に参加して

私は以前より、性的少数者の方とどう関わるべきか、教会は彼らに寄り添うことが出来るのであろうか、またその場合、聖書は私達に何を語っているのであろうか、という疑問を持っていました。今回の日本伝道会議のプロジェクトの1つである「聖書信仰の成熟を求めて」の中で、それが取り上げられていましたので、迷わず、そのワークショップ(実践神学)に参加しました。斎藤善樹師が発題して下さいました。その要約は以下の通りです。「社会は、性的少数者の人権擁護に向けて大きな流れの中にあります。キリスト者も、すべての人が敬われ重んじられることを心から願うものです。聖書信仰に立ちつつ性的指向の多様性をどう受け止め、互いに愛し仕える共同体の中に位置づけるかが課題です。」

このワークショップに約30人の教職者・信徒が参加しまし

た。斎藤師の発題を聞いた後、3つのグループに分かれてディスカッションをし、最後に3グループで話し合われた内容を1つにまとめていく作業を行いました。私が入ったグループにおいては、性的少数者の方の「性的指向」(同性愛)に対し、大きく分けて2つの捉え方がありました。そのような性的指向自体が罪であるという捉え方と、それ自体は罪ではなく、性的指向は多様であるという捉え方でした。また何人かの方々が、同性愛者との関わりの中で、困惑したり、理解するのに困難を覚えたという具体的な体験談を語って下さいました。多少、話し合いがエキサイトした面もありましたが、概ね性的少数者を正しく理解していこう、ということでは一致していたのではないかと思います。もう少し、同性愛者の人口比率などの客観的データが提示されることと、十分に話し合う時間があれば良かったと感じました。

新谷聡一郎 日本ホーリネス教団 蒲郡教会

災害対応で仕える教会

松本順 JEA 援助協力委員長
日本ホーリネス教団 上野教会

1. 災害支援関係

災害に際して皆様からの多くの祈りと支援をいただき心から感謝いたします。

2015 年 4 月に起きたネパール中部地震災害の支援協力をお願いいたしました。ネパールへの支援は JEA とアジア福音同盟を通して交わりがある NCFN(National Churches Fellowship of Nepal) という教会協力組織があり、JEA は主にこの NCFN を通して支援を継続しています。

2015 年 9 月に起きた北関東水害に対しては BGEA(ビリーグラハム伝道協会) より多額の支援金が献げられました。被災教会の再建支援と、支援活動団体への支援金が送られました。また被災者の復興支援にも支援金が送られました。

2016 年 4 月におきた熊本地震の支援のために、支援協力をお願いしました。熊本地震に際して立ち上がった九州キリスト災害支援センターを通して支援を継続しています。5 月 5 日には九州キリスト災害支援センターから中村陽志牧師をお迎えして、「熊本支援の首都圏連絡会」をお茶の水クリスチャンセンターで開催し、共に祈り支援の輪を広げることができました。

この夏各地で起こった台風被害に対して支援金をお送りしました。台風 9 号によって被害を受けた千葉県一宮町 hi-ba キャンプ場、台風 10 号による岩手県の災害支援、北海道災害支援のために支援金を送りました。

2. 国内災害対策フォーラム

各教団・支援団体担当者会議「国内災害対策フォーラム」が 6 月 28 日、お茶の水クリスチャンセンターで開催されました。JEA に加盟している各教団、各支援団体担当者に呼びかけ、災害対応ネットワークの構築を目的として集まっていた



ました。9 の教団と 4 の支援団体、援助協力委員会から合わせて 28 名の参加者がありました。

中にはこれから働きを始めるという教団もあり、すでに活動に取り組んでいるという教団もある中で、それぞれ取り組みの分ち合いがなされました。

また、具体的な災害を想定して、どのような災害支援をするかを小グループに分かれて話し合いました。参加者の方々から、感謝とともに、これからも開いてほしいとの声が寄せられました。JEA のネットワークの中で、災害時に教団と教団が、また教団と支援団体が効果的な協力ができるように、事前に顔と顔

を合わせ備えていくことが大切です。2017 年も国内災害対策フォーラムを開催いたしますので、各教団から担当者をお送りいただきますようお願い致します。

3. JCE6 災害対応プロジェクトワークショップ

第 6 回日本伝道会議において援助協力委員会は、プロジェクト「災害対応を通して仕える教会」を担当しました。神戸の地はかつて阪神淡路大震災を経験した地です。この地で持たれる伝道会議において、日本の教会が災害対応を通して仕える教会となることの重要性を、災害の痛みと回復の経験から学ぶことに大きな意義があります。

プロジェクト「災害対応を通して仕える教会」ワークショップでは、災害対応に重荷をもって集まってきてくださった方々に、教会における災害支援の大切さを伝え、その備えのための災害対応チャプレンの養成、地域教会ネットワークの構築について紹介しました。以下に概要を記します。

I. 災害支援の必要性—教会が災害支援を愛の奉仕のわざとして受けとめ仕える

阪神淡路大震災の被災地である神戸において、阪神淡路大震災で被災し支援の働きを担われた、坊向輝国師と子安敏夫師から貴重な体験の証を聴き、災害支援の必要性を理解し、参加者がそれぞれの教会の奉仕のわざとして受けとめました。

II. 災害対応チャプレン

災害対応チャプレンとは、災害時に、心のケア、スピリチュアルケアを被災者および支援者に提供する、災害に特化したチャプレンを指しています。東日本大震災を機に、その働きと理念が導入され、日本でも災害対応チャプレン養成プログラムが始まりました。災害時の緊急支援から中・長期的な支援活動にかけて、心のケアとスピリチュアルケアは、被災者、支援者の両者に大きな必要があります。災害対応チャプレンの働きの範囲としては、被災者のケア、支援者のケア、支援者に対する被災者ケアの訓練があります。

III. 災害対応教会ネットワーク

教会は、それぞれの地に主の愛の業を現わすために建てられています。しかし、残念ながら一つの教会でできることは極めて限られてしまいます。だからこそ、主にある教会が共に手を携えてネットワークを作るのです。東北の被災地において、広島土砂災害の時にも、熊本地震の時にも、教会ネットワークによって素晴らしい支援の働きがなされました。一つの教会では出来ない事が、協力することでできるのです。災害が起こる前に、教会ネットワークが生れ、その交わりがあれば、災害時に大きなキリストの愛の働きを地域に現わすことができるでしょう。



キム・サンボク前議長（中央）とAEA 実行委員



議長就任の挨拶をする植木師と各国リーダーたち



多中心的宣教の現状について報告するパネリストたち



WEA 宣教委員会新ディレクターのルイス師（中央）と前任のエクストロム師（左）、テラー師（右）



多様な背景のテーブルグループ参加者たち
会議運営もスペイン語・ポルトガル語中心だった

■アジア福音同盟 (AEA) 新議長に植木英次師 — AEA 総会・アジア宣教会議

2016年8月29日～9月1日、インドネシア・バンドンでAEA総会・宣教会議がアジア15カ国から130名の教会リーダーたちを集めて開催され、日本からJEA国際渉外室長・AEA実行委員の植木英次師と品川謙一 JEA 総主事が参加しました。

今回の総会で韓国のキム・サンボク師がAEA議長を退任し、新議長として日本の植木英次師がAEA議長に選任されました。アジア諸国侵略の過去をもち、クリスチャン人口も少ない日本から議長が選ばれたことは、私たち日本の福音派教会がアジアにおける自分たちの責任を再度自覚するように、という主からのメッセージだと受け止めました。

今やアジアは世界人口の60%を抱える地域であり、多くの文化・宗教が混在し迫害と信仰の戦いが激しい福音宣教の最前線です。世界宣教全体におけるアジアの教会の役割がより重要になってきていることを自覚し、AEA新議長となった植木英次師（イムマヌエル綜合伝道団・加古川キリスト教会）のため、またAEAに連なるアジア諸国の福音派キリスト教会と主にある兄弟姉妹たちを通して、主イエス・キリストの福音がアジア各地で力強く証しされるよう祈りを合わせていきましょう。

■ポリセントリック（多中心的）な宣教パラダイムへの転換 — WEA パナマ宣教会議

第6回日本伝道会議直後の2016年10月3日～7日、中米パナマで、世界80カ国から300名以上の宣教リーダーたちを集めて、WEA（世界福音同盟）パナマ世界宣教会議が開催され、日本から松崎ひかり JEA 宣教委員・WEA 宣教委員会アソシエイトメンバーと品川謙一 JEA 総主事が出席しました。

会議では「ポリセントリック（多中心的）な宣教」のリアリティーとして、アフリカの研究者が中国の大学で教える傍ら家の教会を支援していることや、シリア、イラク隣国の難民キャンプで多くの人々が救われていること、出稼ぎで中東で働くフィリピン人家政婦が住み込み先の家族に伝道していることなど、従来の欧米からその他の地域へという地理的方向性、経済が豊かな国から派遣される宣教師・牧師モデルの枠組みに収まらない多様な働きが報告されました。これらは、欧米中心の大きな宣教団体が経済的にも人材的にも疲弊し、「力ある者から力ない者へ」という帝国主義的・植民地化的宣教パラダイムが行き詰まる中で、神様が私たち人間の知恵に先だって起こしておられる福音宣教の草の根ムーブメントとして注目されています。

これからは、経済的に豊かでなくとも霊的に覚醒した国々から、経済大国の形骸化した信仰コミュニティを助ける働きが進んでいくでしょう。また、宣教師や牧師という肩書きで入れない宣教現場も増える中、さまざまな仕事をしながらイエス・キリストの弟子としてのアイデンティティーと宣教スキルをもった人材を育て、多様な職業のキリスト者が草の根的に福音を地域コミュニティの中で受肉化していく働きが必要です。実際、世界各地、特にマジョリティーワールドと呼ばれるアジア、アフリカ、中南米でそのような福音宣教の波が起っています。

日本においては、まだまだ従来の欧米中心、宣教師・牧師中心の宣教パラダイムが支配的ですが、JCE6で報告された、アジア、中南米出身者の在日教会で日本人配偶者・家族への宣教が進められていること、東北や熊本の被災地域での支援を通して地域の人々から「キリストさん」と呼ばれるようになった教会の働き、自動車企業の人的移動を背景にした米国ミシガン州と豊田市の地域教会ネットワークの協力などは、多中心的な宣教パラダイムへの転換のヒントを与えてくれていると思います。

神様が世界各地で従来の宣教の枠組みをこえたムーブメントを起こしておられることに励まされると同時に、私たち日本のキリスト教会が神様の福音宣教の器として用いていただけるよう、柔らかに主の愛に動かされる姿に変えられていく必要性をひしひしと感じた会議でした。

JEA 総務局から

- ◆いつもJEAの働きのためにお祈りとご協力をありがとうございます。JCE6が祝福の内に開催され、JEA総務局も少し落ち着きを取り戻してきました。国内外で宣教情勢が大きく変化する中、世界・アジアの福音派諸教会の動きと日本の教会をつなげていく役割の重要性が増しています。お祈りください。
- ◆JEA総務局は、8月にOCCビルの6階から5階に移転しました。少し広くなり、10名程度の会議は事務所でできますし、オンライン会議もしやすくなりました。電話、FAX、メールアドレスは変更ありません。部屋番号は501ですが、郵便物の宛先は「OCC内」としてください。



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース 50 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
 発行者・中台孝雄 編集者・品川謙一
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
 TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933
 email: adminoffice@jeanet.org